

日本家族社会学会ニュースレター

No. 38 2007.6.12. 編集・発行 日本家族社会学会事務局
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学生活科学部・藤崎宏子研究室
電話：03-5978-5986 FAX：03-5978-5986

日本家族社会学会第17回大会のご案内

日本家族社会学会第17回大会実行委員会
委員長 布施 晶子

前回のニュースレターでお知らせいたしましたように、第17回大会は札幌学院大学で開催されます。多数の会員のご参加を期待しております。

1. 日程：2007年9月8日(土)9日(日)
 2. 会場：札幌学院大学 〒069-8555 北海道江別市文京台 11 番地
大会会場へは、JR 函館本線(下り)をご利用の場合、大麻駅にて下車し、徒歩 10 分ほどです。地下鉄をご利用の場合は、東西線新さっぽろ駅からバスをご利用になり、最寄りの停留所より徒歩 5 分ほどです。なお新さっぽろ駅からはタクシーをご利用になった場合は所要時間は約 10 分です。飛行機をご利用の場合は、新千歳空港から JR 線をご利用になり、新札幌駅にて下車し、そこからバスあるいはタクシーをご利用ください。最寄り駅までの乗車時間は、JR 線で札幌駅から大麻駅まで約 20 分(快速利用時は約 10 分) 地下鉄東西線で大通駅から新さっぽろ駅まで約 20 分です。新千歳空港から JR 線新札幌駅までの乗車時間は、快速を利用して約 30 分です。
 3. 参加費・懇親会費：8 月半ばまでに事前振込みをお願いいたします。詳細は 7 月配布の大会プログラムにてご案内いたします。
 4. 昼食：夏休み中ですし、周辺に飲食店もありません。お弁当の用意をいたしますので、事前振込みの際に参加費・懇親会費と共に振込みをお願いいたします。
 5. 宿泊：各自でご予約ください。なお、先にメルマガでご案内しましたホテル(新さっぽろ駅周辺・大学までタクシーで 10 分)の連絡先は下記の通りです。このうち、シエラトンホテル札幌はもはや満室かと思いません。アークシテイホテルの方は可能性があります。日本家族社会学会会員と名乗って、直接お申し込みください。
- シエラトンホテル札幌 電話 011-895-8800、FAX011-895-8820 (営業担当八代様)
アークシテイホテル 電話 011-890-2525、FAX011-890-2520 (予約担当大竹様)
6. 発表に用いる機器：パワーポイント (WindowsXP) の使用ができる予定です。使用する場合は申し込みの際にその旨を記載してください。

7. 配布資料：当日資料を配布する場合は、発表者の責任で必要部数をご用意ください。部数が足りなかった場合、大会会場校で用意することはいたしません。ご了承ください。

8. 問い合わせ：大会についての問い合わせは、札幌学院大学 木戸功あてにメールでお願いいたします。メールアドレス

研究活動委員会からのお知らせ

前回のニュースでは、次回大会のプログラムについてはシンポジウム「家族のオルタナティブ 家族研究の挑戦（コーディネーター牟田和恵）」で上野千鶴子、小谷部育子（日本女子大学・非会員）、釜野さおりの三氏に登壇していただき、野沢慎司氏に討論いただくことのみおしらせしておりました。研究活動委員会はこれから他のプログラムの編成に入るところです。今年度は例年とだいぶ締め切りの日時が異なっており、「その他の企画」は4月末、自由報告は5月末をもって申し込みを締め切りました。

「その他の企画」は4本の申し込みがありましたので順不同で簡単に紹介しておきます（カッコ内は申込者名、敬称略）。テーマセッションは「家族・非家族をめぐる - つながりの根拠を問う（牟田和恵）」と「NFRJ08に向けて - 類似調査のトレンド分析から NFRJ の役割を再考する（保田時男）」の二つです。国際交流セッションとしては「日本の子育ては何が問題なのか - 国際比較調査から透視する（船橋恵子、中野洋恵）」、またワークショップとして「日本の家族社会学研究における理論の応用と構築のワークショップ（石井クンツ昌子）」が申し込まれました。いずれも魅力的な企画で開催が楽しみです。

なお、自由報告の申し込み状況などはこれを書いている時点ではわかっていません。これから部会編成や司会依頼などを行いつつ、プログラムを完成させ、なるべく早くお手元にお届けできるようがんばります。なお「その他の企画」の詳しい内容や、自由報告の申し込み状況、確定したプログラムなどは、今後順次、ホームページに掲載するようにしたいと思っていますので、注意してご覧下さるようお願い致します。

また、申し込みをされた方々とは、要旨集の作成のために送付された要旨について、若干のやり取りがある場合がありますので、その節はどうぞご協力くださいますようお願い致します。

（直井道子・東京学芸大学）

理事会報告（省略）

2006 年度理事会幹事会 議事録

2006 年度第4回理事会 議事録（第5期理事会 第10回会合）

各種委員会報告

編集委員会

ほぼ予定どおり、連休明けには会員のみなさまのお手元に『家族社会学研究』19巻1号をお届けすることができました。これで、機関誌刊行時期の変更を無事に遂行したことになります。今後、機関誌に関しては、刊行が4月末と10月末、論文等の投稿締切が8月末と2月末、というサイクルで流れることとなります。大きな変更であり、変更前後の二つの号の間隔が狭かったため、編集委員会としては何かと気ぜわしい状態でしたが、まずは移行期を乗り切ってほっとしています。投稿・寄稿くださった方々、査読を担当された専門委員の方々、その他ご協力くださったみなさまには、厚くお礼申し上げます。

先般来、いくつかの投稿規定・執筆要項の改訂を行い、ニュースレターやホームページを通じてお伝えする努力をするとともに、そのつど機関誌の巻末に掲載しております。それらをこの機会にまとめますと、まず、投稿規定では、前述のとおり 機関誌刊行時期変更に伴い投稿締切期日を変更したことのほか、同一号に複数の論文の投稿はできないこと、執筆要項に定める字数制限を超過する論文は不受理とすること、投稿に際してあらかじめ英文要旨のネイティブチェックを受けること、掲載論文の著作権が学会に帰属すること、したがって掲載論文等の他への転載には事前に学会の許可を求めること、をあらたに明記いたしました。また、執筆要項では、投稿論文の文字数上限を20,000字まで引き上げるとともに、図表の原稿字数への換算基準、総行数の計算基準を具体化しております。(実際には、投稿論文のなかに、図表等をかかなり無理に縮尺して要項の基準に合わせようとしたと思われるものがありました。しかし、当然ながら、こうした極端なものについては、編集委員会の判断で対処せざるを得ないことを付け加えさせていただきます。)

なお、これらの改訂の一部はすでに19巻1号に適用されておりますが、19巻2号より適用しているものもあります。改訂後の状況をみておりますと、残念ながら、改訂事項が守られていない投稿も散見されました。また、投稿規定・執筆要項は今後ともさらに改訂される可能性がありますので、投稿にあたっては常に最新号の巻末を注意深くお読みくださるようお願いいたします。

編集委員会の仕事の全容をお伝えする機会がないままに、任期も終盤になりました。委員会は、みなさまに満足いただける機関誌の刊行を任務としており、そのためにさまざまな努力をしております。編集委員会では、魅力ある特集企画を盛り込むなど、内容の充実に努めておりますが、何よりも重い仕事は信頼される査読体制を運用して、水準の高い論文を掲載することです。ご承知のとおり、掲載された投稿論文は、日本家族社会学賞(奨励論文賞)の対象という意味でも、重要な意味をもっています。

ちなみに、刊行時期変更後2号目にあたる第19巻2号では、論文・研究ノートの投稿が16本にも及びました。多数の投稿は大いに歓迎すべきことではありますが、各稿につき複数の専門委員に査読を依頼して最終的に掲載の可否を決定するまでには、かなり大変な作業を要しております。専門委員の先生のなかには、諸事情で査読をお受けいただけない場合も若干生じておりますが、ぜひとも事情をご賢察いただきご受諾くださるようお願いするとともに、投稿者にも査読を担当して下さっている専門委員のご尽力をご理解いただきたく思います。編集委員会は、複数の専門委員のあいだで評価が分かれた場合、会議の場での慎重な討議を経て判定し、委員会としての査読コメントを作成して投稿者にお送りしております。これも、編集委員会の重要な役割と位置づけております。

委員会は、こうした編集作業と並行して、規定・要項の改定、査読マニュアルや査読ガイドラインの策定の

検討にあたってきております。しかし、前者については、たとえば、転載許可のための書式の作成等はこれからの作業となりますし、後者については、次の任期の委員会への引継ぎの最大課題ですが、まとめはこれからです。会員アンケートに寄せられた編集委員会への注文にいかに対応するか、という課題にもまだ着手できておりません。年2回の機関誌刊行を東西2つの小委員会の2元体制で行っているため、刊行作業において統一基準を保つことにはかなりの精力を要しており、上記のような大きな課題を残して任期終盤を迎えることになりましたので、いよいよスパートをかけなければとやや緊張している所です。

(庄司洋子・立教大学)

庶務委員会

1. 会員調査について

会員の皆様のご協力により、「家族社会学会第2回活動点検会員アンケート調査」が終了いたしました。このニューズレターに調査結果の概要をご報告しておりますのでご覧下さい。会員総数709名、有効回答票139票、回収率19.6%でした。郵送回答25票に対してweb上での回答は124票でした。パスワードの入力ミスと思われるものなど、多少の問題もありましたが、インターネットが大いに利用されていることが分かります。詳しい調査結果は3月の理事会で報告され、現在、委員会ごとに今後の活動のために、結果のご意見をどのように生かすかを検討しております。調査の単純集計結果を以下に掲載いたします。また、表形式のデータを含むより詳しい結果については、学会HPでご覧ください。今回の調査について、ご意見やご質問がありましたら、事務局までお寄せ下さい。

なお、会員調査のweb上での作成につきましては岩井紀子理事と保田時男事務局委員、集計作業はお連れ合いの保田直美さんにお世話になりました。記してお礼を申し上げます。

2. 理事選挙について

今年は3年に一度の理事選挙の年に当たります。選挙管理委員会は、牧野カツコ理事(委員長)、岩上真珠会員、野沢慎司会員の3名で構成し、藤崎宏子理事(事務局長)が事務を担当いたしました。新会長及び新理事については、9月の学会大会の総会において承認の手続きがおこなわれます。

(牧野カツコ・お茶の水女子大学)

第2回会員アンケート調査(単純集計結果)

調査対象：日本家族社会学会会員 709名(2006年10月末時点)

調査時期：2006年11月15日～12月10日

有効回収数：139票(回収率：19.6%)

下記にはパーセンテージのみを記入。

年齢2区分(39歳以下55名、40歳以上84名)と各項目をクロス集計し、²検定で有意($p < .05$)になった場合のみ、年齢2区分別のパーセンテージを追加表示(39歳以下%/40歳以上%)

複数回答の設問は、選択された回答のパーセンテージを表示。

自由記述の回答は、記載しませんが、各委員会でご意見を参照させていただいています。

回答者の属性

問1[年齢] 29歳以下 8.6%, 30-34歳 16.5%, 35-39歳 14.4%, 40-44歳 7.9%, 45-49歳 14.4%, 50-54歳 9.4%, 55-59歳 13.7%, 60-64歳 7.9%, 65-69歳 5.0%, 70歳以上 2.2%

問2[会員区分] 一般会員 82.7%(70.9/90.5), 学生会員 16.5%(29.1/8.3), DK・NA 0.7%(0.0/1.2)

- 問3 [会員歴] 入会后3年未満 25.2%(49.1/9.5), 入会后3~5年未満 14.4%(18.2/11.9),
入会后5~10年未満 21.6%(27.3/17.9), 入会后10~16年未満 11.5%(5.5/15.5),
16年以上 27.3%(0.0/45.2)
- 問4 [役員歴(複数回答)] 会長・顧問・理事・会計監事 13.7%(0.0/22.6), 複数年にわたる委員 18.0%(5.5/26.2),
単年度の委員 11.5%, 役員経験なし 67.6%(83.6/57.1)

(1)最近の大会について

- 問5 [大会参加頻度] ほぼ毎年 38.1%, 2・3年に1度位 27.3%, 近年は参加していない 10.1%,
あまり参加していない, 10.8%, 参加していない 13.7%
- 問6 [大会シンポジウムの改善点] 特になし 84.9%, ある 12.9%, DK・NA, 2.2%
- 問7 [自由報告の形態] 現状のままでよい 51.1%, 1つの部会で報告できる人数を増やして、並行する部会の数を減らすべき 39.6%, その他 4.3%, DK・NA 5.0%
- 問8 [自由報告の時間配分] 現状のままでよい 38.8%, 並行する部会にタイミングよく移動できるように、あらかじめ決めておくべき 55.4%, その他 3.6%, DK・NA 2.2%

(2)機関誌について

- 問9 [『家族社会学研究』を読む頻度] よく読む 18.0%, 関心のある部分だけ読む 76.3%,
あまり読まない 5.8%, 読まない 0.0%
- 問10 [『家族社会学研究』の学術的水準] 大変高い 12.9%, まあ高い 74.1%, あまり高くない 10.8%, DK・NA 2.2%
- 問11 [『家族社会学研究』の発行回数] 1回で十分 5.8%, 現状のままでよい 84.9%, 少ない 7.2%, DK・NA 2.2%
- 問12 [論文・研究ノートを自由投稿した経験] ある 28.1%, ない 67.6%, DK・NA 4.3%
- 問13 [投稿論文・依頼原稿が掲載された経験] ある 30.9%(16.4/40.5), ない 68.3%(83.6/58.3), DK・NA 0.7%(0.0/1.2)
- 問14 [投稿原稿(論文)の字数制限の変更] 変更してよかった 61.9%, もとのままがよかった 3.6%, どちらでもよい 31.7%, DK・NA 2.9%
- 問15 [投稿原稿(研究ノート)の字数制限] 多い 2.2%, 適当 84.9%, 少ない 8.6%, DK・NA 4.3%
- 問16 投稿論文の査読制度についてのご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。
- 問17 『家族社会学研究』で取り上げて欲しいテーマがありましたら、自由にお書きください。できれば執筆適任者もあけて下さい。 特集 研究動向 その他
- 問18 機関誌の編集方針について、ご意見・ご要望等がありましたら、自由にお書き下さい。

(3)全国家族調査 NFRJ について

- 問19a [NFRJ98の認知度] 内容について知っている 61.2%, 名前だけ知っている 30.9%,
ほとんど知らない 7.2%, DK・NA 0.7%
- 問19b [NFRJ01の認知度] 内容について知っている 40.3%, 名前だけ知っている 33.8%,
ほとんど知らない 25.2%, DK・NA 0.7%
- 問19c [NFRJ03の認知度] 内容について知っている 54.7%, 名前だけ知っている 36.7%,
ほとんど知らない 7.9%, DK・NA 0.7%
- 問20a [NFRJの評価:データの質] 非常によい 17.3%, よい 44.6%, よくない 0.7%,
非常によくない 0.0%, わからない 33.1%, NA 4.3%
- 問20b [NFRJの評価:データの一般公開] 非常によい 48.9%, よい 33.8%, よくない 0.0%,
非常によくない 0.0%, わからない 14.4%, NA 2.9%
- 問20c [NFRJの評価:データ公開までの期間の長さ] 非常によい 11.5%, よい 46.0%, よくない 10.8%, 非常によく
ない 1.4%, わからない 26.6%, NA 3.6%
- 問20d [NFRJの評価:HPを通じての情報公開] 非常によい 37.4%, よい 43.2%, よくない 1.4%, 非常によく
ない 0.7%, わからない 12.9%, NA 4.3%
- 問20e [NFRJの評価:実行委員の人選] 非常によい 11.5%, よい 31.7%, よくない 4.3%,
非常によくない 1.4%, わからない 47.5%, NA 3.6%
- 問20f [NFRJの評価:学会員からの意見の聴取] 非常によい 10.1%, よい 34.5%, よくない 8.6%, 非常によく
ない 1.4%, わからない 41.7%, NA 3.6%
- 問20g [NFRJの評価:大会でのテーマセッション] 非常によい 17.3%, よい 45.3%, よくない 3.6%, 非常によく
ない 0.7%, わからない 28.8%, NA 4.3%
- 問20h [NFRJの評価:成果の刊行] 非常によい 25.2%, よい 54.0%, よくない 0.0%,

- 非常によくない 0.0%, わからない 16.5%, NA 4.3%
- 問 20i [NFRJの評価：とりくみ全般] 非常によい 18.7%, よい 48.2%, よくない 0.7%,
非常によくない 0.0%, わからない 28.8%, NA 3.6%
- 問 21 [学会主体の公共利用データの作成] 今後とも必要 81.3%, 今後は必要ない 0.0%,
どちらともいえない 11.5%, わからない 5.8%, NA 1.4%

(4) 文献データベースの作成について

- 問 23 [文献登録の頻度] 毎年登録している 13.7%(7.3/17.9), 毎年ではないが登録している 36.0%(25.5/42.9),
文献登録はしたことがない 38.1%(45.5/33.3), 知らなかった 11.5%(21.8/4.8), DK・NA 0.7%(0.0/1.2)
- 問 24 [文献データベースの利用頻度] よく利用する 10.1%, たまに利用する 31.7%,
あまり利用しない 32.4%, 利用しない 25.2%, DK・NA 0.7%
- 問 25 [文献データベースの改善点] 特にない 83.5%(83.6/83.3), ある 6.5%(12.7/2.4), DK・NA
10.1%(3.6/14.3)

(5) 学会ニュースについて

- 問 26 [ニュース・レターを読む程度] よく読む 30.2%(18.2/38.1), 関心のある部分だけ読む 64.7%(72.7/59.5),
あまり読まない 4.3%(9.1/1.2), 読まない 0.0%(0.0/0.0), DK・NA 0.7%(0.0/1.2)
- 問 27 [ニュース・レターの内容] 大変よい 13.7%(5.5/19.0), まあよい 84.2%(94.5/77.4),
あまりよくない 0.0%(0.0/0.0), DK・NA 2.2%(0.0/3.6)
- 問 28 [ニュース・レターの改善点] 特にない 89.2%(92.7/86.9), ある 4.3%(7.3/2.4), DK・NA 6.5%(0.0/10.7)

(6) 学会ホームページについて

- 問 29-1 [学会 HP を見た経験] 見たことがない 12.9%, 見たことがある 86.3%, DK・NA 0.7%
- 問 29-2 [問 29-1 で「見たことがある」人へのみ: リニューアル後の HP を見た経験] ある 79.3%, ない 17.4%,
DK・NA 3.3%
- 問 30 [HP から情報入手したことがある項目(複数回答)] 入会案内 20.1%(34.5/10.7), 大会情報 76.3%, 投稿規
程 37.4%, 過去のニュース・レター 10.1%, 人事公募 25.2%,
助成金の案内 20.1%, 講演会・研究会の案内 46.8%, NFRJ の情報 31.7%,
- 問 31 [HP への要望] 特にない 95.0%, ある 1.4%, DK・NA 3.6%

(7) 学会メールマガジンについて

- 問 32 [電子メールの利用] 利用している 89.9%, 利用していない 9.4%, DK・NA 0.7%
- 問 33 [メールマガジン配信の認知] 知っている 95.0%, 知らない 4.3%, DK・NA 0.7%
- 問 34-1 [学会事務センターへのメールアドレスの登録] 登録している 91.4%, 登録していない 6.5%, DK・NA
2.2%
- 問 34-2 [問 34-1 で「登録している」人へのみ: メールマガジンの受信] 受信している 95.4%,
受信したことがあるが、現在は停止している 1.3%, DK・NA 3.8%
- 問 34-3 [問 34-2 で「受信している・受信したことがある」人へのみ: メールマガジンに目を通した経験] 目を
通したことがある 83.8%, 目を通したことはない 2.3%, DK・NA 13.8%
- 問 35-1 [メールマガジンで配信を希望する項目(複数回答)] 教員公募 61.2%, 講演会案内 81.3%, 研究会案内
87.8%, 助成金案内 64.0%, 大会案内 82.7%, その他 7.2%

(8) 会員の個人情報について

- 問 36 [会員名簿の必要性] 必要 82.0%(74.5/86.9), 不要 13.7%(23.6/7.1), DK・NA 4.3%(1.8/6.0)
- 問 37 [新入会員紹介欄の必要性] 必要 70.5%(63.6/75.0), 不要 23.7%(34.5/16.7), DK・NA 5.8%(1.8/8.3)

(9) 役員選挙について

- 問 38 [理事選挙の投票] 必ず投票している 14.4%(5.5/20.2),
投票することが多い 21.6%(7.3/31.0), 投票しないことが多い 29.5%(23.6/33.3),
一度も投票したことがない 33.8%(63.6/14.3), DK・NA 0.7%(0.0/1.2)
- 問 39-1 [理事に関する意見] 複数回答で、「あてはまる」とした割合
理事がどのような仕事をしているか、会員にはわかりにくい 48.9%(70.9/34.5)

理事にはもっと若い人がなるのがよい 28.8%
理事にはなるべく年配の人がなるのがよい 2.2%
同じ人が10年以上理事をするのは望ましくない 53.2%
10年以上理事を務める人がいるのはよいことだ 5.0%
自分の選挙区だけでなく、他の選挙区の人にも投票できるほうがよい 28.8%
会長は理事だけの投票によるのではなく、一般会員全員が投票するのがよい 19.4%
理事選挙にはほとんど関心がない 27.3%

全国家族調査（NFRJ）委員会

NFRJ 委員会は、「全国家族調査」の実施とその管理・サービスを担当する委員会です。1999年の第1回調査(NFRJ98) 2004年の第2回調査(NFRJ03)の2度の調査を経て、現在2009年に第3回調査(NFRJ08)を実施することが予定されています。

1 NFRJ08 実行委員会について

NFRJ08の実施に向けて、実行委員の公募を日本家族社会学会会員に対して行いました。自薦・他薦の結果、以下のように委員が確定しました。

NFRJ08 実行委員会（*は幹事）

委員長：稲葉昭英*（首都大学東京） 事務局長：永井暁子*（日本女子大学）

委員：井田瑞江（関東学院大学） 金 貞任（東京福祉大学） 澤口恵一*（大正大学） 施 利平（明治大学）
品田知美（立教大学） 島 直子（放送大学） 嶋崎尚子*（早稲田大学） 鈴木富美子（淑徳大学、） 田中重人*
（東北大学） 田淵六郎*（上智大学） 土倉玲子（北海道文教大学、） 筒井淳也（立命館大学） 西野理子*（東洋大学）
西村純子*（明星大学） 福田亘孝*（国立社会保障・人口問題研究所） 松田茂樹*（第一生命ライフデザイン研究所）
松信ひろみ（駒澤大学） 保田時男*（大阪商業大学）

このほか、事務局員として大日義晴会員（首都大学東京大学院）が事務局長を補佐します。すでに実行委員会は調査デザイン班（代表西野委員）、調査票班（代表嶋崎委員）、サンプリング班（代表田中委員）の3つの班にわかれ、作業を開始しています。今後とも参加を希望する会員（学生会員は除く）は常時受け付けますので、NFRJ08 実行委員会事務局(永井委員)までお知らせください。なお、NFRJ08 は2010年には学会内での共同利用を開始し、2011年をめどに会員外へも一般公開を行う予定です。また、調査のための予算は科学研究費基盤研究(A)ですが、資金的に十分とはいえないため、他の研究費の獲得のための努力を続けています。

2 NFRJ08 全体研究会について

NFRJ08 実行委員会では、公開の研究会を随時行います。第1回の全体研究会は本年1月7日に開催（於：東京大学、参加者約30名）保田、田淵、永井、松田の各委員が報告を行いました。この内容は、この3月末に発行された報告書『NFRJ08 の実現のために』（全国家族調査委員会編）に収録されています。この報告書は、学会大会時などに配布予定ですが、入手ご希望の方は、実行委員会事務局（永井委員）までお申し込みください。なお、報告書は無料ですが送料は着払いとさせていただきます。

3 NFRJ03 データの一般公開について

NFRJ03 データは2006年12月中に、東京大学社会科学研究所 SSJ データアーカイブに寄託が完了し、会員資格に関係なく利用できるようになりました。今後、データの利用を希望される方、およびこれまでの利用を継続したい方は、SSJ データアーカイブに利用申請を行ってください。ただし、学部生が利用を希望する場合には SSJ からではなく、指導教員と連名で NFRJ 委員会事務局(西野委員)まで利用申請をしてください。

また、NFRJ03 の英語版調査票も石井クンツ昌子会員の尽力により、まもなく公開予定です。

4 NFRJ データ利用状況について

NFRJ03 は、2007 年 4 月末時点で 65 人が利用中、研究論文 13、学会報告等 14 の成果をあげています。NFRJ98 は累計 160 人が利用、研究論文 30、学会報告 32、NFRJs01 は累計 24 人が利用、研究論文 1、学会報告 4 といった成果があがっています。

5 会員アンケート結果について

会員アンケートの結果、NFRJ 実行委員会のあり方に対して、いくつか誤解ともとれる記述がありましたので、この場をかりて説明します。まず、実行委員はニュースなどを通じて公募を行い、自薦・他薦によって選出された全員が委員に着任しています。機会は全会員に開かれています。なお、学会の他の委員会と同様に、学生会員は委員とはしないことを定めています。実行委員でなくとも、データ収集後 1 年後には学会員であればデータの利用は可能になります。

これまでは実査終了時から 2 年後には、データの一般公開を実現してきました。このスケジュールに対して、時間がかかりすぎるといった批判があるようですが、一般的な公共利用データと比較してみると、NFRJ はむしろ非常に短期間に学会員への提供、一般公開を行っています。むしろ、この結果として実行委員には膨大な負担が集中しているのが実情です。どうか、この点を理解いただけたらと思います。NFRJ はあくまで会員の研究活動のための事業であり、実行委員や NFRJ 委員のための事業ではありません。こうした点はこれまでも委員一同自戒してきたつもりですが、こうした誤解が生まれないように、情報の周知にこれまで以上につとめたいと考えています。

(稲葉昭英・首都大学東京)

日本家族社会学会賞（奨励論文賞）選考委員会

今年はピエンナーレ方式の日本家族社会学会賞（奨励論文賞）の授賞年にあたります。ご承知とは思いますが、当学会では 2 年に 1 度、優秀な論文に関してさらなる展開と精進の期待を込めてこれを表彰してきました。今回で 4 回目の授賞年を迎えます。奨励論文賞には二つの条件があります。一つは、本学会機関誌『家族社会学研究』に自由投稿し採択された論文であること、二つには著者が修士課程修了後 10 年以内、というものです。二番目の条件については、共著者がいる場合はこの条件が全員に適用されること、また実年齢が例えば 50 歳であっても修士修了後 10 年以内であれば対象資格を有することになります。最近では研究者キャリアの多様化を反映して、社会人入学の会員も多くなってきています。あるいは団塊の世代の退職期を迎え、学び直しを目指す会員も増えてくるものと思われれます。これらの会員の、おそらく大部分は奨励論文賞の授賞資格を有するはずで

本賞受賞は履歴書の賞罰欄記載はもちろん可能ですし、研究歴が比較的若い研究者にとっては今後のキャリア形成上大きな意味を持つものです。できれば家族社会学研究の登竜門のような賞に育っていくことを期待しています。ですので、対象となる会員の皆様にはこれからも奮って良質の論文投稿を促したいと思います。

現在、奨励論文賞選考委員会が立ち上がり有資格審査を終え、7 本の対象論文について第一次選考を進めております。9 月の札幌学院大学での学術大会では会員の皆様に授賞論文を公表できる運びとなるでしょう。

(清水新二・奈良女子大学)

事務局便り

1) 第 5 期理事会の任期も残り少なくなりました。このニュースレターは、今期理事会が発行する最後のもの

となりますので、少し早めですが、この場をお借りして、会員のみなさまの学会活動へのご協力に深く感謝の意を表したいと思います。

- 2) 現在事務局では、新会員名簿の作成準備中です。5月にお送りした理事選挙有権者名簿確認の郵便物のなかに、「会員データ確認・修正票」が封入されていたことと思います。変更の連絡は6月8日が締切となっていました。まだお済みでない方は大至急返送してください。
- 3) 名簿の作成と会員への配付の必要性について、会員アンケートでたずねたところ、82%の方が必要、14%の方が不要という結果でした。個人情報をめぐるさまざまな問題があるなか、不要というご意見があることもやむを得ないことと思います。ただし、現状ではさまざまな学会活動や会員相互のネットワークづくりの基礎資料として必要度は高いと判断し、作成することといたしました。名簿の掲載情報については、各会員の判断で選択できますので、3)で書きました件、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

(藤崎宏子・お茶の水女子大学)

会員による新刊書の紹介（試行段階）

「第2回会員アンケート」において、メールマガジンで配信する内容として、「会員による新刊出版書の案内」の掲載希望が何件か寄せられました。そこで、会員の著書・翻訳書・編書についての情報をいただければ、定期的に(1ヶ月に1回程度を予定)、メールマガジンで、ご案内させていただくサービスを4月から試験的に始めました。メールマガジンでは、4月20日発信の第42号でご案内しました(学会のホームページをご参照下さい)。

学会員が、著者・编者・分担執筆者・翻訳者として関わった新刊書(2006年4月以降刊行)についての書誌情報を、学会のホームページの「お知らせ」欄の4月19日掲載の「会員による新刊書の紹介」にリンクしている申し込みに入力して、お寄せ下さい。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsfs2/newbooks/app_form.html

情報を確実に簡便に整理する点からできるだけweb上で申し込んでいただきたいのですが、郵送でも受け付けております。申し込み会員氏名、E-mailアドレス(お持ちの場合)、書名、著者・编者・訳者、出版社、出版年月、税込価格、関連ページのURLをご記入の上、学会事務局に郵送でお送り下さい。

日本家族社会学会事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 国際文献印刷社内

なお、作業負担があまりにも大きい場合には、事前にご連絡の上、サービスを中止することがあるかもしれませんが、その点は、どうぞご容赦ください。

(岩井紀子・大阪商業大学)

会員異動（省略）

編集後記

学会情報も最近では頻りにメルマガを通じてスピーディに届けられるようになりました。そのメルマガの速報性とこのニューズレター情報の総合性および記録性の双方を、会員諸氏におかれましてはそれぞれにうまく組み合わせてご利用ください。

吉原さんとのコンビで作成し皆様にお届けしてきた奈良版ニューズレターも、理事改選期を迎えつつ私たちの役割は今号をもってお役ご免と相成ります。種々過不足があったこととは思いますが、目黒会長、藤崎事務局長、各委員会委員長、そして国際文献印刷社の担当者の方には毎号原稿の執筆やら校正でお世話になりました。春過ぎて 夏来にけらし白妙の 衣ほすなり天の香具山。

(ニューズレター担当理事 清水新二； 委員 吉原千賀)